

2011年4月20日

環境部門会議

田島 一成 座長

近藤 昭一 座長（環境副大臣）

衆議院議員 山崎 誠

緊急提案

福島第1原子力発電所事故における避難区域内の動物保護について

表記の件、福島第1原子力発電所事故における避難区域内においてペットや家畜が置き去りにされ、餓死するもの、野生化してしまうものなど問題が顕在化してきており、これらの動物保護の必要性が高まっている。

本件について、災害時の動物保護活動を世界で展開している国際動物福祉基金（IFAW）から添付のようなご提案を頂きました。

IFAWは世界15カ国、120万人の会員を有する世界最大の動物保護組織であり、阪神淡路大震災、ナホトカ号の原油流出事故をはじめ、過去12年間で100を超える災害で世界を舞台に活動してきた実績があります。活動にあたっては、専門家の派遣を含め緊急時の救援プログラムを提供することができます。

本提案につき、ご検討の上、ご採用頂きますよう、お願いいたします。

【連絡先】

IFAW（国際動物福祉基金）

日本代表 舟橋直子 様

〒160-0023 新宿区西新宿5-24-16 西新宿ウェールビル 6F C+

TEL 03-5843-4476 FAX 03-6850-6916

Email nfunahasi@ifaw.org

国際動物福祉基金（IFAW）からの提案（要約）

福島第1原子力発電所事故に伴う避難区域における動物保護について

福島第一原発から 30km 圏内に生息している動物を正確に把握することは困難であるが、IFAW が避難住民を対象に調査を実施したところ、多くの動物や家畜が置き去りにされている現状が浮かび上がってきた。動物保護に向け、IFAW は以下の内容を提言する。

1. 動物救済計画を立てるために、避難区域の動物生息数を把握すること。

IFAW の査定方法：

- ① 上空からの大まかな実態把握
- ② 適当な地域を選定し、動物の生息状況を調査し確認する
- ③ 震災前後の人口、避難率、特定の地域の動物の数をもとに、避難動物の総数を把握する

2. 専門家で構成される委員会を早急に召集し、避難対象となる動物と範囲を確定し、対応策を検討すること。

※放射能汚染・除去、動物生理学、動物行動学、動物の救済・避難、野生動物の生態、作業員の安全確保などの専門家が必要となる。

3. 上記委員会が提言をまとめるのと同進行で、以下のような動物の安全確保に向けた準備を進める。

- ・ 避難動物の数と種類を把握するための査定を行う。
- ・ 家畜への飼料配布を早急に行う。
- ・ ペットのための餌場を 20-30km 地点に設置する。
- ・ 野生動物の主要な生息地点で餌やりを行う。
- ・ ペット用シェルターを設置する。
- ・ 動物の避難が始まる前に、ペット用シェルターのスタッフ、設備を揃え、即利用可能な状態にしておく。
- ・ 避難動物を確実にトラッキングできるシステムを作る。ペットの搜索を依頼したり、居所をトラッキングできるシステムを被災者が利用できるようにする。
- ・ ステージングエリア（中間準備地域）を設定する。

- ・ 各ステージングエリア（中間準備地域）で放射性物質洗浄ができるよう配備する。
- ・ 獣医のトリアージチームを救済・避難チームにつける。
- ・ 獣医のケアチームを、長期間利用されるシェルターにつける。
- ・ 避難動物を中間準備地域からペット用シェルターへ安全に運ぶ方法の確立を行う。
- ・ 輸送用ケージと設備を確保する。
- ・ 訓練を受けた救助・避難チームを配備する。
- ・ インシデント・コマンド（災害時指揮）のストラクチャーの構築する。
- ・ インシデント・コマンド（災害時指揮）やインシデント・マネジメントに精通した、指揮監督に携わる全てのメンバーが、いつでも必要なトレーニングを受けることができるようにする。

避難区域の動物を保護することで、動物を助けようと危険区域に進入する人を減らすことができ、また、放射性物質で汚染された動物の収容もできる。人間への必要物資はこれまでに一通り検討されており、今後は動物への必要物資の検討を始めることが重要である。

以上